

昭和初期の中川運河を没入体験！

まつしげこうもん 松重閘門 ハイカラデイズ



松重閘門エリアと中川運河の
魅力を楽しむ2日間！

2024年

11月3日 日

4日 月・休

10時～17時



01 歴史探検「旧松重ポンプ所」

演劇×照明×音響による没入型エンターテインメント
ナゴヤカブキのキャストがお出迎えして
松重閘門が建造された昭和の世界をご紹介します！



ナゴヤカブキの
私たちが
ポンプ場の歴史を
ご案内します！



※写真はイメージです

中川運河開通時の面影が現存する松重閘門、旧松重ポンプ所を見学しませんか。昭和初期からやってきたようなハイカラな衣装を着たガイドがエリア内の歴史的な資産を楽しく解説します。

●ガイドツアー ※定員30名 当日受付
10:30/11:00/11:30/12:00/
12:30/13:00/13:30/14:00/
14:30/15:00/15:30/16:00/
16:30

02 昭和レトロカレーまつり

洋食メニューの大定番
“カレー”が大集合

昭和初期に登場し今でも大人から子供まで広く愛されているハイカラメニューの代表カレーライスを味わってみませんか？



■キッズキーマ ※写真はイメージです



■昭和レトロカレー ※写真はイメージです

キッチン
カーが
やってくる！



●乗船料/片道 大人 600円(税込)
小人[小学生] 400円(税込)

●運航時間/10:00～16:30

ささしまライブ(堀止)発

10:00/11:00/12:00/13:00/14:00/15:00/16:00

松重閘門発

10:30/11:30/12:30/13:30/14:30/15:30/16:30

荒天時など開催有無は名古屋おしえてダイヤル TEL052-953-7584 (当日午前8時～)でご確認ください。 ※おかけ間違いのないようご注意ください。



03 中川運河クルーズ

市松模様がハイカラなお座敷船で
中川運河をクルーズ

ハイカラガイドがささしまライブ乗船場から旧松重ポンプ所までの見どころを楽しく紹介します。

※ハイカラガイド乗船時間 10:30～16:00



本イベントは松重閘門エリアでのにぎわい創出を図るための社会実験です

市バス・地下鉄でのおでかけが便利でお得です！



土・日・休日及び毎月8日(名古屋環境保全の日)に、
ご利用いただける **ドニチエコきっぷ**
大人620円・小児310円で市バス・地下鉄が1日乗り放題！
※「ドニチエコきっぷ」「一日乗車券」「24時間券」の利用範囲は、交通局ウェブサイトをご覧ください。



ご利用開始後の有効期限内のドニチエコきっぷ等の一日乗車券・24時間券を提示するだけで、名古屋市内の施設・飲食店等で割引等の特典が受けられます！
※詳細は地下鉄駅で配布している特典ガイドブック「なごや得ナビ」をご覧ください。

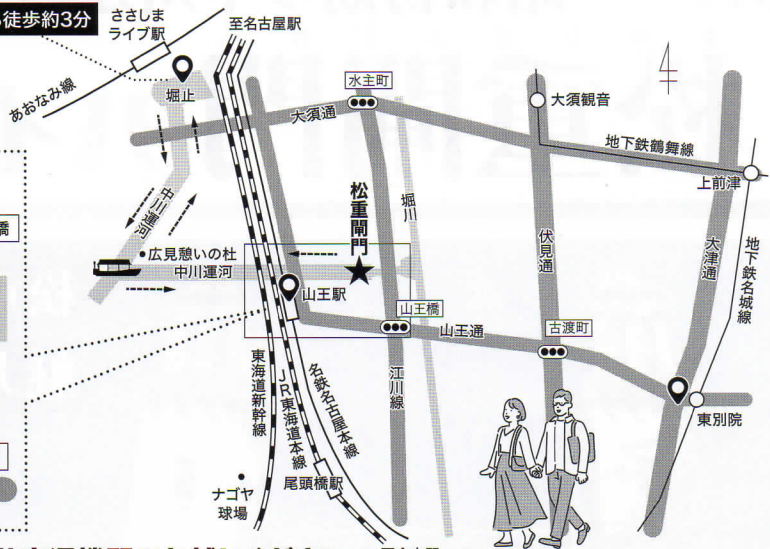
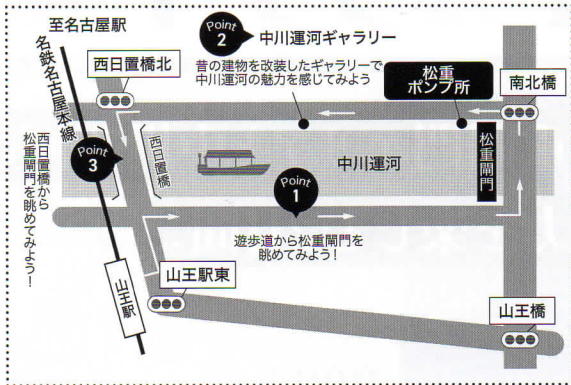
Access Map

● ささしまライブ乗船場(堀止)からクルーズ船に乗るなら

ささしまライブ駅から徒歩約3分

● 名鉄本線山王駅から歩くなら

山王駅から松重開門まで徒歩約7分



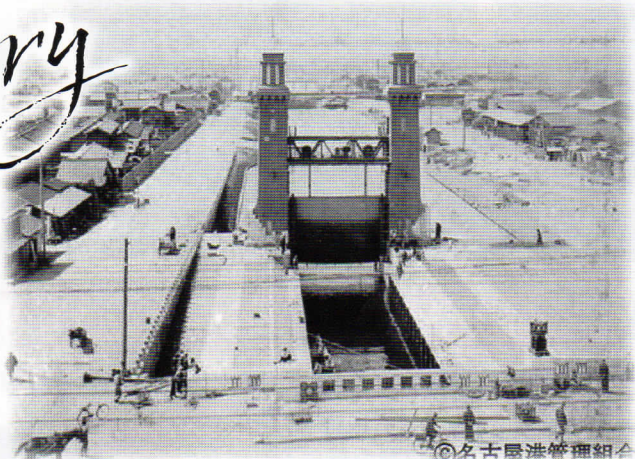
※イベント会場に駐車場はございません。公共交通機関でお越しください。

まつしげこうもん

松重開門 History

松重開門は、水位差のある堀川と中川運河を船で通航できるよう、1930(昭和5)年に建設、1932(昭和7)年に供用開始されました。構造は、水門が上下に動くストーンリー式で、水門で仕切られた開室内の水位を上下に調整することで船の通航を可能としていました。陸上輸送の発達により船の利用が減少したため、1976(昭和51)年に閉鎖されましたが、市民の強い要望により保存されており、1986(昭和61)年に名古屋市指定有形文化財に、1993(平成5)年には名古屋市都市景観重要工作物に指定されました。

◆◆◆◆
市民の強い要望により
保存されている「松重開門」



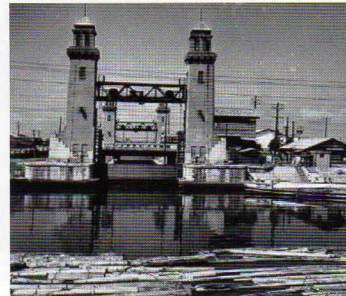
昭和7年当時の松重開門

※写真1



松重ポンプ所(左の建物)と松重開門

※写真2



昭和30年前後の中川運河

※写真3



松重ポンプ所の内部

※写真4



昭和30年前後の中川運河

※写真5



※写真6

◆◆◆◆
松重開門を語る上で
欠かせない「中川運河」

中川運河は、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅(現ささしまライブ24地区)とを結ぶ運河として、1930(昭和5年)に大部分が完成し、「東洋一大運河」と呼ばれました。1932(昭和7)年には堀川へと繋がる部分が完成し、松重開門によって堀川との連絡が可能となりました。その後、ピークの1964(昭和39)年には7万5千隻を超える船が往来し、出入貨物量が400万トン以上となるなど、水運による物流軸として、名古屋の経済・産業を支えました。現在は、水運物流の減少を背景に中川運河の役割が見直され、広大な水辺に新たな価値や役割を見出し、「うるおいや憩い、にぎわいをもたらす運河」へと再生を目指し、様々な取り組みがすすめられています。

※写真2…提供 名古屋市 ※写真1,3,4,5,6…提供 名古屋港管理組合

お問い合わせ

名古屋市住宅都市局まちづくり企画部名港開発振興課(名古屋市役所西庁舎4階)

TEL 052-972-2785 FAX 052-972-4161

E-mail: a2784@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp